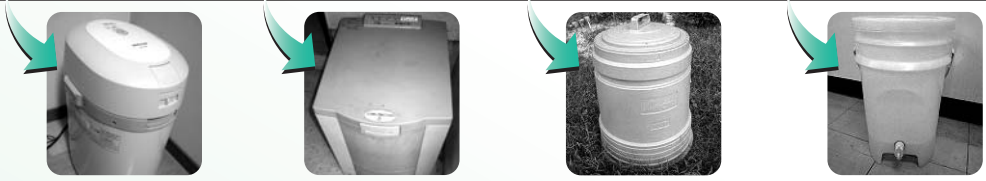


生ごみは燃やさずに 主に還してみませんか？

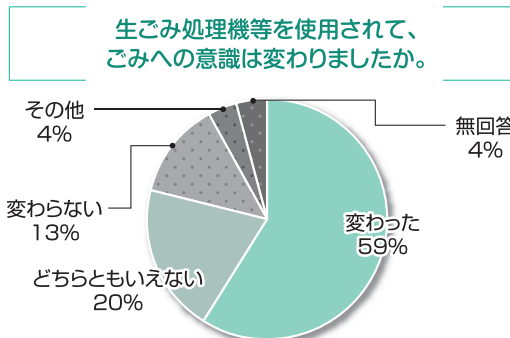
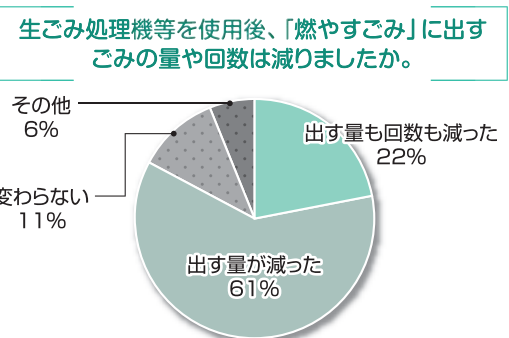
家庭から出る燃やすごみの中で最も割合の多いものは「生ごみ」です。
その生ごみを、機械や容器を使って減量化、
たい肥化することができます。

生ごみ処理機等比較表				
種別	電気式(乾燥式)	電気式(バイオ式)	土上設置型コンポスト化容器	密閉式容器
使用方法	生ごみをかくはんしながら熱風を送り、乾燥させて減量する	かくはんや加熱を行い、微生物の力で生ごみを発酵・分解する	生ごみ、乾いた土、落ち葉などを入れ、土の中の微生物の力で生ごみを分解する	空気のない状態で働く微生物の活動で生ごみを発酵・分解する
特徴	●機械が小さい ●電気代がかかる(1日400gの場合20円前後) ●作動音が気になる場合がある ●臭いが少ない	●電気代は乾燥式に比べて安い ●数ヶ月おきに、専用のバイオチップの交換が必要な機種もある ●たい肥ができる	●落ち葉なども同時に処理できる ●たい肥化までに時間がかかる	●電気を使わず本体は割安 ●液肥が作れる ●ポカシ菌(発酵促進剤)をふりかけて生ごみを発酵させる ●ポカシ菌の購入が必要 ●土に埋めて熟成させる場所が必要
設置場所	台所などの室内	屋外の場合、雨などが直接あたらないところ	排水が良く、日当りのよい畑や庭などの土の上	室内・室外とも直接日光の当たらないところ
価格	5~6万円	4~6万円	3~8千円	3千円前後(EMポカシ菌は別途)
減容率(目安)	約1/7	約1/8~1/10	—	—
ワンポイントアドバイス	電気代節約のため処理機に入れる前に水分をできるだけ飛ばす	—	生ごみ投入後、上から土をかけて、生ごみが見えないようにする	空気や虫が入ってこないよう、しっかりフタをする



生ごみのたい肥化で さらに ごみ減量

平成23年度 生ごみ処理機等使用状況アンケート結果



アンケート結果より、83%の人から使用後は燃やすごみに出すごみの量が「減った」という回答がありました。また、生ごみ処理機等の使用により「ごみへの意識が変わった」と59%の人が回答しています。「ごみへの意識が変わらない」と答えた半数以上の人も以前から生ごみ処理機等を使用するなどごみ減量を行っており、ごみ減量への意識が高い人が多いということがわかりました。

使用者の声

- 「生ごみを出す量も回数も減り、ごみへの意識が変わってきた。肥料として再利用できー石二鳥。」
- 「雑草や落ち葉を入れたときに米ぬかをふり入れて早くたい肥化させています。」(土上設置型コンポスト)
- 「処理機のごことは夫が購入するまで知らなかった。初めは嫌だなと思ったが、使ってみるとよかった。今では毎日ごみ箱代わりに入れている。」

生ごみ処理機やコンポスト化容器などの購入費を助成します

【助成額】 購入費(消費税を除く)の半額 上限1万円
【申込方法】 購入前にリサイクル推進課に電話などで予約を。



ごみ減量は生ごみから

生ごみの約70~80%が水分といわれています。
水切りを行うことで臭いを軽減、運搬・燃焼にかかるコストも削減できます。

野菜などは含水率90%台です。



濡らさない! 乾かす!

野菜・果物の皮などは水がかからないところに分けておくだけでも水分削減に効果があります。また、写真のように2~3日乾燥させればかなり水分が飛ばせます。



絞る!

水切りネットに入った生ごみを最後にひと絞り。(約10%重量が軽くなり、生ごみの悪臭・腐敗防止になります。)

そして紙類はリサイクルへ



サイズがバラバラなメモ用紙や紙箱は封筒に入れて雑誌などと一緒にヒモがけして出しましょう。

紙類がかなりの割合で燃やすごみの中に混ざっています。新聞、折り込みチラシなどは資源物としてなじみがありますが、それ以外の雑誌、紙箱、紙袋なども名刺サイズ以上の大きさであればリサイクル可能ですので、集団回収や紙・布の日に出しましょう。(お酒の紙パックなど、内側がアルミ加工されているものや、圧着ハガキなど特殊加工されたものはリサイクルできませんので、燃やすごみの日に出してください。)

燃やすごみに入っていた紙箱など



ざつ がい
雑紙は資源物です。燃やさずリサイクルへ。
地域の集団回収を積極的に利用しましょう。

